

学校評価における小刻みアンケートシステムの概要

Outline of Simple Questionnaire Management System in School Evaluation

堀田 敦士* 小西 克哉* 下村 聡** 柳瀬 貴夫*** 豊福 晋平****
Atsushi HOTTA* Katsuya KONISHI* Satoshi SHIMOMURA** Yanase TAKAO*** Shimpei TOYOFUKU****

株式会社プラネクス* エデュコム教育システム研究所** 株式会社エドウェル*** 国際大学****
Planexus Inc.* Educom Education System Research Institute** Eduwel Corporation***
Center for Global Communications, International University of Japan****

＜あらまし＞ 小刻みアンケートシステムとは、学校の児童生徒・保護者を対象として、携帯電話やウェブサイトを用い、複数回実施する簡便な調査を管理運用する機構である。本稿では、学校現場で用いるために最適化したシステムデザインの特徴・意義と、その運用方法について述べる。

＜キーワード＞ 学校評価 教育評価 Web利用 システム開発 情報処理システム

1. はじめに

2003 年以降学校向けの広報支援システムが各社から開発・製品化されている。学校日記(学校ブログ)を中心に構成された CMS (Content Management System) 製品としては、ベースとなるスクール WEB アシスト(以下 SWA)、ホームページ機能とセンター運用機能を拡張した SWA-プラス。さらに学校評価支援システムとして機能拡張された SWA-アドバンスがある。本稿では、SWA-アドバンスに実装した小刻みアンケートシステムの概要について述べる。

2. SWA-アドバンスの主な機能

SWA-アドバンスに組み込まれた小刻みアンケートシステムには以下の機能があり(2010 年 7 月現在)、全てウェブ上で運用管理できる。

- ・設問群(共通・独自)の作成
- ・アンケート調査票の作成(設問群の組み合わせによる)
- ・ユーザーの管理(実施・回収方法に応じて、不特定多数、無記名、記名ありの 3 タイプがある)
任意のグループを作成しユーザー管理できる(教職員、3 年 2 組、保護者など)
- ・アンケート実施設定(対象者グループ、実施期間、回答方法などを設定する)
- ・回答実施(PC、携帯などに対応)
- ・結果集計(通常集計、クロス集計、推移集計等がリアルタイムで可能)

特に、推移集計については、複数回のアンケート結果を時系列でグラフ化できるので、目標設定＞授業公開＞アンケート実施＞回答分析＞目標設定 といったサイクルが効果的に機能しているかどうかのチェックにも役立つ。

・結果公表機能(公開すべき設問と集計結果を選んで、ウェブ上へ公開する)結果集計と連動しているので、リアルタイムの結果公開が可能である。

その他、付随した機能としては、CSV によるユーザーアドレスの一括登録、集計結果の CSV へのエクスポート、登録されたユーザー(回答者)への事前メールや、未回答者への催促メール、回答者へのお礼メール機能を備えている。

携帯ユーザーへの支援としては、QR コードによる回答ページ URL の配布も可能である。

3. 特徴

3.1. 柔軟性

アンケートは実施する地域や対象者によって様々な形式が考えられるので、柔軟な運用に対応する必要がある。具体的には次の 3 点があげられる。

1 点目は、設問と回答が自由に設定できる事。設問文章を設定するエレメントのほか、回答形式として短文、長文、数値入力、単一選択、複数選択などを設定し、設問データベースを作成できる。また設問群は、共通ライブラリ化が可能であり、既存の設問をそのまま再利用したり、一部を複製してオリジナルの設問を簡単に作成したりすることが出来る。

2 点目は、多様な対象者を前提とした柔軟性である。アンケート内容によって、匿名で回答を求める場合もあれば、一人一回だけの制限付き、特定のグループに複数回実施する、など実施仕様に応じた対応が可能なので、一般的なアンケート収受はもちろん、校長室へのご意見箱(匿名投稿)のような使い方もできる。

3 点目は回答の際の柔軟性である。保護者の ICT 利用状況を調査すると、携帯の普及・利用率がかなり高い。ただし、携帯のメールアドレスを収集管理す

ることは、個人情報保護の観点から学校への負担が大きく、実際にはメールアドレスを集めることすら困難である。

そこで、アンケート実施時には、個人のメールアドレスを利用しなくても回答開始できるように、回答 QR コードを印刷して配布することや、あるいは、バーコードリーダーの無い機種の場合は短縮化された URL を準備することで、対応可能である。

3.2. 広域性

SWA-アドバンスは自治体ごとに学校をグループ化して統括するセンター運用機能を有するが、その機能を用いて、グループ内の学校で共通のアンケート実施が容易に行える。設問や調査票の作成は、一カ所で行い、共通アンケートのひな型を使って各学校が自由に希望する回数分だけ実施可能である。

さらに、柔軟性とも関連するが、一つのアンケート用紙の中に、共通設問と、学校独自の設問を混在させることが可能なので、例えば、アンケート前半の基本設問だけ共有のひな型を利用し、後半では学校独自の活動についての設問を付け加えるといった柔軟なアンケート調査票設計が可能である。

3.3. 即時性

学校評価における外部アンケートの目的は、学校目標に基づいた教育活動に関して、学校関係者から有効な意見を聴取すると共に、結果を適切にフィードバックすることにあるので、アンケート実施と集計、結果公表に至るサイクルがより短期間であれば、評価結果が教育活動へ反映される機会が増え、より目標に到達しやすくなると予想される(文部科学省, 2009)。

従前の一般的な外部アンケート実施例をみると、調査実施から集計結果公開まで、1~2 ヶ月を要するのが通常だが(下松市立久保小学校, 2009)、SWA-アドバンスのアンケート機能を用いれば、アンケート実施期間の終了と同時に集計公開が可能である。

3.4. 連続性

短期間に集計が可能ということは、年間に数回というより、もっと頻繁に、毎月や毎週、場合によっては毎日の実施も可能である。

毎回同じアンケート調査票を用いる事で、実施毎の推移を読みとることができる。また、年度をまたいで複数年(例えば 1 年~6 年)までの推移集計も可能である。

4. システム・フロー

小刻みアンケートシステムのフローを図 1 に示す。

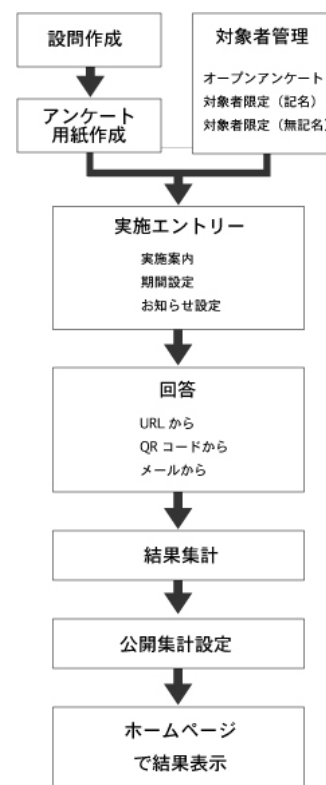


図 1 システム・フロー

5. 今後の学校評価とアンケートシステム

豊福(2009)によれば、学校広報の目的は、まず学校・保護者・地域の相互信頼を確立することにあるが、学校評価が有効に機能するには、さらに高次の説得・協働レベルを求める必要があり、一方向の広報から双方向への進化が求められる。

より正確で質の高い学校評価を実施するには、評価者に対する豊富な根拠情報の提示とともに、本稿で紹介した評価データ収集と客観的分析結果の提示が今後より重要になると考えられるので、引き続きシステムの検討と活用事例の収集を継続したい。

参考文献

- 豊福晋平(2009) 学校関係者間の信頼形成を目的とした学校広報ガイドの制作, 日本教育経営学会第 49 回大会要旨集
- 文部科学省(2009) 学校関係者評価参照書 - 学校関係者評価を活かしたよりよい学校づくりにむけて
-, http://www.mri.co.jp/NEWS/press/2009/pr090415/pr090415_hlu01.pdf
- 下松市立久保小学校(2009), 「平成 21 年度 学校づくり(学校評価)のすすめ方」によると、外部アンケートは 11 月末実施、結果公表は 1 月
<http://www17.ocn.ne.jp/~kcit02t/hp-home/hyokukasukasumekata.pdf>